

15才の少女 (1988)

LA FILLE DE QUINZE ANS

メディア 映画

ジャンル ロマン스

製作国 フランス

色彩 Color

時間 93分

初公開日 1990/08/18

公開情報 シネマテン

【キャッチコピー】

ピュアな愛が残った。 いちばん好きな季節――夏。

【解説】

ドワイヨン監督自身が主演（ハンサムなんだ、コレが）を兼ねる、84分の短尺に爽やかな夏風の吹き抜けるヴァカンスと恋の物語。スペインのイビザ島でボーイフレンドのトマとその父ウィリーと一夏を送る少女ジュリエットは15歳。彼女は愛することへの恐れから、大人になるのを拒んでいるふしがある。彼女の愛の定義では、性の領域が愛を墮落させると言う厳しいもの。周りの男の子はみんなその点で“穢れ”ていったように見えた。確かな絆を持つ愛をトマに求める彼女は、ウィリーの包容力を意識せざるを得ない。トマはあまりにも結論を急ぎすぎて、仕方のないことかもしれないけど……。その視線を察知する彼女の心の揺らめきを受け止めたウィリーも久しく感じることもなかった、清新な想いに満たされてゆく。少女が文字通り“大人”になるのをただ描くのではなく、相手の少年が真に“男”として女性を理解でき、また、中年の父親が“愛”の微妙さに再び立ち返る様を描いた、男性にこそ見て欲しい、ピュアな作品。ラスト、ひとり少女の見つめる夕景の海が切ないほど美しい。

【クレジット】

監督	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
脚本	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
	ジャン＝フランソワ・ゴイエ	Jean-Francois Goyet
	アルレット・ラングマン	Arlette Langmann
撮影	カロリーヌ・シャンプティエ	Caroline Champetier
音楽	ジェフ・コーエン	Jeff Cohen
出演	ジャック・ドワイヨン	Jacques Doillon
	ジュディット・ゴドレーシュ	Judith Godreche
	メルヴィル・プポー	Melvil Poupaud